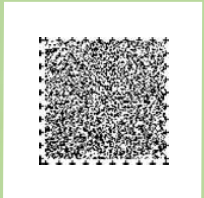




耕耘機の導入で作業効率がアップ。収穫量の増加で収入も増えたという

ありが ヒューマン ドキュメント



おお どう かす え
[大堂 和枝 さん] 出水郡長島町

長島に障害のある 人たちが働く場を

「今日も一日元気で頑張ろうね」。大堂和枝さんが施設長を務める、特定非営利活動法人『長島福祉作業所 ぼんぼこ村』には、今日もメンバーの明るい声が響き渡る。「ぼんぼこ村」は農業やパン作りなどを通して、知的障害者の自立を目指し活動する長島町唯一の福祉作業所として、平成12年4月に開所した。

開所のきっかけは、当時、養護学校高等部に在籍し寮生活を送っていた大堂さんの長男が、「卒業後は家族と一緒にいたい。家の近くで働きたい」と熱望したことだった。「息子のような思いを持った人は他にもいるはず」と障害のある子を持つ保護者とともに、自宅の一部を開放してメンバー7人でスタート。地元に戻す子狸のイメージで『ぼんぼこ村』と名付けた。



長島福祉作業所「ぼんぼこ村」施設長の大堂和枝さん

その後、ツルメモドキのリース作りや炭焼きなど地元の豊かな自然も利用。それらを販売することで、障害者が自立できる道を模索し続けました」と、大堂さんは当時を振り返る。

「自分にできる仕事がある」という喜び

現在、『ぼんぼこ村』には町内在住の22歳から52歳までの18人が通っている。地元の人から借り受けた40アールの畑では、ジャガイモやサツマイモのほか季節に応じた野菜や苗を栽培し、無人販売所などで販売している。

「雨が降ると農作業ができない。農業以外の活動も」と、平成21年7月には「障害者自立支援基盤整備事業（基金事業）」を活用してパン工房をオープンした。ジャガイモのスライスをのせた『長島パン』や、自家農園の野菜を使った調理パン、チョココレタつぶりの『ぼんぼこパン』など、地元の素材を活かした約30種類のパンは大好評。このほか、子狸をイメージしたガーデンピックやヒオウギ貝のキーホルダー、廃材の貝を使ったシエルアートなど活動は多岐に渡り、イベント参加の依頼も後を絶たないほどの人気だ。

「メンバー一人ひとりが責任ある仕事を分担することで、『人から必要とされている』という思いを実感しています。『自分が働いたお金で、自分の好きなものを買うなんて最高」

と話すメンバーを見る度に、自分に自信を持ってくれたことが何よりうれしいですね。ここまで来られたのは家族をはじめ、同じ思いを持つ保護者やスタッフ、地域の方々の支援のおかげ」と話す大堂さん。

今後はパンの移動販売や、グループホームの設置などの大きな夢を抱く『ぼんぼこ村』。メンバーが生まれ育った長島町ですと暮らせるように、大堂さんをはじめとするスタッフの奮闘は続いていく。



大人気の手作りパンは、町内の物産館などで販売している

平尾幼稚園跡に開所した「ぼんぼこ村」の第2作業所。ここにパン工房もオープンした



特定非営利活動法人 長島福祉作業所 ぼんぼこ村 (就労継続支援B型)

〒899-1302
鹿児島県出水郡長島町平尾
3590番地1
TEL 0996-88-2888
FAX 0996-88-2888

